

# 山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

## 8月号

第59巻 第7号  
2014年

無料  
Free

も  
く  
じ

今月の1枚.....	1ページ
・ライチョウ生息状況調査講習会	
展示・イベントのご紹介.....	2～3ページ
・日本山岳画協会大町展	
博物館ひろば.....	4ページ
・新たなキャンププログラムを提供	
・八坂中学校の職業体験学習	
・どうぶつ写生大会 表彰式	
・大町南小学校3年生 社会科見学	



フィールドでは、調査手法などの講習を受けました

ライチョウ生息状況調査講習会

清水 博文

平成26年6月16(月)・17日(火)に立山室堂平で開催された「平成26年度ライチョウ生息状況調査講習会」に参加してきました。

現在、環境省は今年4月に策定した「第1期ライチョウ保護増殖事業実施計画」に基づいて、ライチョウの生息域内保全(ライチョウがすんでいる高山の中での保護保全活動)を行う計画がされています。しかし、調査者によって調査手法の細部が異なることや、近年ライチョウの調査者の高齢化や減少が懸念されていることから、後継者の育成を目的として「ライチョウのなわばり推定調査法ハンドブック」を作成することとなり、そのためにこの講習会が行われました。

参加者は、実際にライチョウの野外調査を実施している人のほか、ライチョウの生息の域内任全と併せて

実施されるライチョウの生息域外保全を進めるにあたり、ノルウェーに生息しているスバルバルライチョウを試行的に飼育研究している動物園関係者も大勢参加していました。

研修では座学のほか、野外実習があり、個体の直接確認と糞などの痕跡の確認、地形や植生を考慮したナワバリ範囲の推定などを行いました。

また、残雪上に残された猛禽類に捕食されたライチョウの痕跡(羽とクチバシ程度しか残されていない)やオスどうしのなわばり争いを間近に見たり、つがいでの行動など、繁殖期のライチョウの生態を観察することもでき、今後のライチョウ飼育を行うにあたり参考となる内容でした。

(市立大町山岳博物館副館長)

# 展示・イベントのご案内

## 企画展「平成26年度 日本山岳画協会 大町展」のみどころ

日本山岳画協会は、1936(昭和11)年に日本山岳会を母体として、好んで山の絵を描く画家の集団として結成されました。創立会員には中村清太郎、足立源一郎、石井鶴三、茨木猪之吉、吉田博、丸山晚霞ほか6名が参加して発足し、本年で78年目を迎えます。

作品の主題は、山頂や山中などに限定せず、望遠、山麓、溪谷、湖沼、草木、禽獣など山に属するものはもとより天象、人生、神話、伝説の類まで、国内外に広く題材を求めたものであります。

協会結成15年後の1951(昭和26)年、大町の地に山岳博物館が誕生し、山岳文化の殿堂として今日に至っています。

本年は大町市制施行60周年、大町市と美麻村・八坂村との合併10年、中部山岳国立公園指定80周年という三重の記念すべき年にあたり、ここ大町山岳博物館を会場に約80日間の長期にわたって展覧会を開催いたします。

ご来館の皆様には山の魅力の再発見や絵画から伝わる山岳美を感じ取っていただき、作品に込めた作者の熱意と心情をお汲み取りいただければ幸いです。



武井清「春の穂高連峰」油彩画 F100

市立大町山岳博物館 日本山岳画協会

以下では、本号と次号の2回にわけ、第1部テーマ「日本の山・世界の山」(会期：7月19日(土)～9月15日(月))において展示する作品について、作家ご自身により描かれた時のエピソードや作品の解説をいただきました。



「上高地」

あおき じゅんこ  
青木 淳子

神奈川県生まれ、現在埼玉県在住。示現会準会員。

### 第1部 (1) 作品名「上高地」油彩画 F50

写生場所は上高地大正池。10月なのに、急に大雪が降り、穂高連峰はすっぽりと雪を被り、麓はまだまだ美しい紅葉だった。贅沢な三段紅葉と、真白な穂高に圧倒された、すばらしい自然の贈り物をくださった神様に感謝して絵筆をとった。

### (2) 作品名「シャンボリック」油彩画 F20



「那須岳紅葉」

いとう まさあき  
伊東 政朗

東京都生まれ、現在千葉県在住。大調和会委員、千葉県展会員。

### 第1部 (1) 作品名「那須岳紅葉」油彩画 F50

10月の中旬、那須岳は紅葉で美しく彩られます。南月山経由で那須岳(茶臼山)に登り、三斗小屋温泉の大黒屋に泊まりました。途中で見たこの時の紅葉の見事な景色が忘れられません。

### (2) 作品名「山里」油彩画 F10



「雪溪・一の倉沢」

いとう やすひで  
伊藤 康秀

東京都生まれ、現在千葉県在住。習志野市美術会々員。

### 第1部 (1) 作品名「雪溪・一の倉沢」油彩画 F50

溪の雪崩も落ち着き、新緑の季節(6月中旬)に谷川岳の一の倉沢にやってきました。春先の雪崩の轟音も今はなく、小鳥の囀りと溪を渡る風のみの静かな春の一日でした。真冬の厳しさから開放された岩壁と残雪と新緑のコラボを表現してみたくてここまで登ってきましたが、昨夜来の雨の為、稜線は厚い雲の中でした。

穏やかな中にも厳しさのある山の姿を少しでも表現出来れば幸いです。

### (2) 作品名「山里に冬近し」油彩画 P10



「初夏立山」

えむら まさかず  
江村 貞一

東京都生まれ、現在東京都在住。創元会運営委員、日本山岳会々員、三峰山岳会々員。

### 第1部 (1) 作品名「初夏立山」油彩画 F50

梅雨の晴間を見て、立山に向かう。室堂はさすがに人が多い。みくりが池を過ぎ雷鳥平までくると、人影も少なく静寂になる。連休のにぎわいが信じがたい。アイゼンを付け、急な雪の斜面を登っていく。別山乗越に出ると、目の前に残雪に輝く劔岳の雄姿がとびこんでくる。風もなく絶好の写生日和だ。別山にかけて、劔岳と立山を数枚描くことができた。この作品はその一点である。幸運なことに、翌日も快晴が続いたので、スケッチをしながら立山を縦走して一ノ越から室堂へ出る。

### (2) 作品名「ペルーアンデス(チンボヤ山)」油彩画 F20



「アンナプルナ南峰」

くりまた いさお  
**栗又 功雄**

東京都生まれ、現在東京都在住。示現会々員、稲門山の会々員、日本美術家連盟会員

第1部 (1) 作品名「アンナプルナ南峰」油彩画 F50

ヒマラヤ・アンナプルナベースキャンプまでのトレッキング。2012年11月、初めての4000mに挑戦。真夏のポカラから車で2時間ほど、カーラから歩き始める。アップダウンの繰り返しで、5日目アンナプルナベースキャンプ4030mに到着。夕日の沈むころ、アンナプルナ南峰をスケッチ。透明で深い青の空は、油絵では表現できなかった。



「ヒマラヤの景観」

こたに あきら  
**小谷 明**

東京都生まれ、現在東京都在住。日本旅行作家協会副会長。

第1部 (1) 作品名「ヒマラヤの景観」油彩画 M50

エベレスト街道の基地は、ナムチェバザール、シェルパの村だ。村を出発すると正面右手にアマダブラムが見え、進むと左手からローツェシャル、ローツェの大岩壁が見えてくる。その稜線中央にエベレストが頭を見せている。午前中はシルエットだが、午後一となると岩壁が輝きだして圧巻だ。今夜の宿営地タンポチュエはアマダブラムの山裾にある。

(2) 作品名「カンテガ、タムセルク」油彩画 F20



「グランドジョラス南陵」

ごとう みつお  
**後藤 三男**

茨城県生まれ、現在千葉県在住。日本美術家連盟会員、日本山岳会々員。

第1部 (1) 作品名「グランドジョラス南陵(イタリア)」油彩画 M50

イタリアとフランスの国境に当たる4000m峰のモンブラン山群の南面で、アントレーヴとスイス国境に至るフィレの谷一帯に広がるところで、冬はスキー場、夏はリゾート地、その裏側はフランスのシャモニーミティ針峰群ドリユーとメール・ド・グラスの氷河地帯、シャモニー側にはライセンスを持ったスキー指導員、夏は山岳ガイドとして働く邦人と複数の山岳ガイド社、邦人ガイドが常駐している。

(2) 作品名「マルファの村(ネパール)」油彩画 F20



「白馬三山の夜明け」

しみず やすひろ  
**清水 保博**

愛知県生まれ、現在愛知県在住。水彩画。

第1部 (1) 作品名「白馬三山の夜明け」水彩画 P30

ほのかに残雪を赤く染める「白馬三山の夜明け」。山の日の出は爽やかだ。雪と岩をほの赤く染め、岩陰を茶紫に、雪上を紫に。中腹のペールを、まだ少ない朝の赤い日差しと、それに目覚める前の暗い闇。麓のペールは森の大樹の精。そして手前の這松と岩が登山道の色どり。

(2) 作品名「千丈より甲斐駒ヶ岳を望む」水彩画 P10



「ユングフラウ 仰ぐ」

すぎやま おさむ  
**杉山 修**

東京都生まれ、現在東京都在住。東京都山岳連盟、好山会々員、吉田版画アカデミー所属。

第1部 (1) 作品名「ユングフラウ 仰ぐ」木版画 全紙

6月下旬のスイス・アルプスは、高山植物が咲きみだれる最もあざやかな時期です。この絵を描いたときも足元は黄色のタンポポが、ジュータンのように一面に咲いていました。

しかし私は、このあざやかな風景をあえて墨で描こうと決めていました。足元の花をあきらめ、頭上にそびえ立つユングフラウの秀峰の岩と雪の世界に圧倒されたのです。まぶしい陽光、白い雪面、均整のとれた美しい稜線、忘我の時間でした。

(2) 作品名「マッターホルン 黎明」木版画 半切



「鉢伏山の散歩路」

たかはし こ  
**高橋てる子**

東京都生まれ、現在神奈川県在住。日本山岳会々員、カルチャー講師。

第1部 (1) 作品名「鉢伏山の散歩路」油彩画 F30

諏訪湖の上にある鉢伏山は、車で行くことができ、四季を通じて色々な花たちが、私達を楽しませてくれます。夏の終わりは、花々を見ながらゆっくりと歩いて、最高の気持ちにしてくれました。

今は亡き夫と何回も歩いた思い出の山になってしまいました。

(2) 作品名「天国へのトレース」油彩画 P20

つぎの方は、年間を通して博物館の観覧料が無料です。  
・大町市内在住の65歳以上の方  
・大町市内の小学校・中学校に通う児童・生徒の方  
(入場の際、受付にてお名前等をご記入ください)



大町市立大町西小学校5年生(54名)の青木湖キャンプにおいて、自然科学系と人文科学系学芸員の2名が「青木湖なぞ解きウォークラリー」と題して、新たなプログラムを提供させていただきました。

解説では大きなパネルや実物を用いて、青木湖を含めた仁科三湖(木崎湖・中綱湖)がどのようにしてできたのかを地形や糸魚川-静岡構造線と地震との関係を示し、自分たちのいる場所がどのような場所であるのかを知っていただきました。また、青木湖周辺に見られる遺跡郡を紹介し、青木湖

がなぜ縄文人にとって暮らしやすかったのかを森と湖から得られる動物や植物等の恵み、石器産地とを結びつけ、石器(藪沢遺跡から出土した日本一大きいとされる「耳飾り」)や土器などの実物も示しながら理解を深めていただきました。

植物と動物とのかかわりでは、オニグルミの木の下でリスやネズミによるクルミの実の食あとの違いを実物で見比べたり、これらが一方的に食べられてしまうだけではなく、リスやネズミが種子散布に一役かっていることを紹介しました。

最後に青木湖にすむ魚の明治以前と現在を比較したり、かつて大町にも見られたサケの遡上が今では見られなくなったのはなぜだろうかと、児童のみなさんに問いかけ、考え、こたえていただき、全問を通して、大地の成り立ち、そこにすむ生きもの、そして人、これらはすべてつながりを持っているのだということを知っていただく機会

といたしました。

博物館では、このようなプログラムを通して今後も学校キャンプ等における学習支援をさせていただきたいと考えております。

このほか、各校キャンプ場周辺の自然のなかに隠れている昆虫を自分たちで見つけ(ルーペ等を用いた体のつくりを)観察したりすることで、これまでに理科の授業で学んできたことの定着を図るプログラムもご用意しています。お気軽にお問い合わせ・ご相談ください。



### 八坂中学校の職業体験学習

平成26年6月18日(水)・19日(木)実施



山岳博物館では、中学生や高校生を中心に職業体験学習の受け入れを実施し、地域における社会教育施設として、学校教育におけるキャリア教育推進にご協力させていただきます。

この度は、八坂中学校2年生2人が2日間の職業体験学習を行いました。飼育員といっしょに餌の調理・給餌、飼育舎の清掃、園内の整備という通常業務を一通り体験していただきました。後日、2人からは「体験学習で大変と思ったこともありましたが、楽しく学習することができました」という感想のお手紙をいただきました。

今後の進路の参考していただければ幸いです。

### どうぶつ写生大会 表彰式

平成26年7月6日(日)実施



6月21日(土)から博物館講堂を会場に開催してきました「どうぶつ写生画展(日本動物園水族館協会中部ブロック動物園・水族館写生大会参加)」の最終日に、長野県知事賞・長野県教育長賞・日本動物園水族館協会会長賞・大町市長賞・大町市教育長賞・山岳博物館館長賞・金賞・銀賞・銅賞の各受賞者23名の表彰式が行われました。受賞された皆さま、おめでとうございます。

当日は、残念ながら欠席された方もいらっしゃいましたが、保護者同伴の参加が多く見受けられ、この記念日をご家族の思い出のひとつとしていただけたら幸いです。来年も多くの方が参加されることを期待しています。

### 大町南小学校3学年 社会科見学

平成26年7月10日(木)実施



大町南小学校3年生(2クラス59名)が社会科の授業で山岳博物館を訪れました。この授業は、「身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子」を学ぶ単元で行われ、この日は「大町市社会見学」と題し、市役所や市街地、博物館をまわりながらの校外学習でした。

博物館の3階「展望ラウンジ」からは、北アルプス山麓に広がる大町市が一望できます。児童たちは眼下にまちを見下ろしながら、その様子を観察しました。学校や駅、工場などの建物を探し、建物が多いところ、田んぼや畑が多いところなどを確認して、市内の土地利用の特徴をつかんでいました。

今後も、学校のさまざまな単元学習で、博物館を利用していただければ幸いです。